

2023 年度

授 業 計 画

精神保健福祉士養成科（夜間課程）



学校法人 敬心学園

東京都知事認可 厚生労働省指定養成施設

日本福祉教育専門学校

「授業計画」の活用法について

この「授業計画」は、みなさんが在籍する学科を卒業するために必要な科目について、学習を進める上での**基本的な設計**が書かれてあります。

【記載事項】

基本的な設計とは、

- (1) 目標・・・何を目指している・何をねらっている科目なのか
 - (2) 指導・・・目標を達成するための学習順序や授業方法、使用する教材等
 - (3) 評価・・・目標の達成度合いをはかること
- です。各科目について右ページの項目で整理・構成されています。

【上手な活用法】

(1) 最初の授業が始まるまで

「ねらい」「到達目標」を確認する

▼障害者に対する支援と障害者自立支援制度の例

●授業のねらい●

障害者福祉制度の変遷を理解するとともに、障害者自立支援制度（障害者総合支援法）の仕組みとその内容について学習する。また、障害者本人への自立に向けた支援のみならず、家族への支援の方法についても習得する。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ・障害者福祉の理念である概念を踏まえ、具体的な障害者への支援の方法と障害者総合支援法の内容について理解ができる。
- ・現代の障害者福祉制度の歴史的変遷を理解し、自分なりに新たな福祉のかたちを構想することができる。

(2) 最初の授業とあわせて

「評価方法」を確認する。科目の特性により、評価の方法が異なります。

当校の評価は、「**定期試験**」「**出席率**」の**2つの方法**を採用しています。各科目の特性に応じて、評価における重みには違いがありますが、授業に全て出席し、授業中に行われる確認テスト（小テスト）や各種レポート課題などもしっかり提出することで、定期試験でもよりよい評価が得られるという基本的な考え方はいずれの科目にも共通します。従いまして、授業の中で実施する各種テストや個別に提示される課題の提出状況なども上記の中で評価されます。

(3) 日頃の授業とあわせて

「授業計画」における進み具合（現在の位置）を確認する。

※予習・復習をしたり見通しをもって授業に参加したりすることで日々の授業での理解が高まり、定期テストなどの直前の学習に余裕ができます。

予習・復習の活用例

授業の前に重要な法律名や用語、人物名を確認しておく

①②③と続く内容がおわったところで①～③までつながりで確認しておく

授業で小テストがあったら、正解していてもなぜそれが正解かを言えるようにする

わからないことがあれば、リアクションペーパーに質問を整理して提出する

「授業計画」の活用法について

科目名

■障害者に対する支援と障害者自立支援制度

講師名

高田 次郎丸

2CW1・2 / 講義 / 2単位 / 半期 / 必修 (15回)

期間や回数等

本科目の学習で
目指すこと

●授業のねらい●

障害者福祉制度の変遷を理解するとともに、障害者自立支援制度（障害者総合支援法）の仕組みとその内容について学習する。また、障害者本人への自立に向けた支援のみならず、家族への支援の方法についても習得する。

学習の結果必ず到達
したい状態目標

●授業の方法●

教科書や配布プリントに沿って講義しつつ、事例検討を積極的に取り入れて進める。また、進行度合いに応じて、介護福祉士国家試験の過去問題等にも触れる。

授業の方法や形式

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ・障害者福祉の理念である概念を踏まえ、具体的な障害者への支援の方法と障害者総合支援法の内容について理解ができる。
- ・現代の障害者福祉制度の歴史的変遷を理解し、自分なりに新たな福祉のかたちを構想することができる。

授業の進め方
学習項目のおよその
ながれ・見通し

●授業計画（講義の流れ）●

1. オリエンテーション、障害者の自立について
2. 障害者制度の歴史的変遷①
3. 障害者制度の歴史的変遷②
4. 障害者自立支援制度（障害者総合支援法）の概要
5. 障害者自立支援制度と関連法令
6. 障害者への支援の方法
7. 事例検討①
8. 事例検討②
9. 障害者への支援の方法（外部講師）
10. 事例検討③
11. 障害者の家族への支援の方法
12. 事例検討④
13. サービス等利用計画案の作成①
14. サービス等利用計画案の作成②／今講義まとめ
15. 定期試験

※講義の進度により、講義
内容や順序が変更になる場
合があります。

●成績評価・講義上の注意●

成績評価における
各方法がしめる割合

定期試験 70%、出席率 30%

●教科書●

『新・介護福祉士養成講座 2 社会と制度の理解 第6版』
中央法規

授業で使用する教科書

※その他、参考図書や資料がある場合は、講師より授業にて紹介します。授業等の時間にご自身でしっかり確認をし、学習に役立ててください。
※授業でプリントや資料が配布された場合は、教科書とあわせて重要な学習教材となります。

■人体の構造と機能及び疾病

近藤 真名美

P S W T ・ P S W N / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (1 5 回)

●授業のねらい●

人間の体の仕組みと機能を理解する。また、生活習慣病をはじめとする疾病について理解する。

●授業の方法●

テキスト・必要資料を参照し講義をすすめる。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

人間の体の仕組みと（発達と老化も含め）精神機能の関連性を理解した上で、利用者への関わりが出来る。国家試験合格に向け、必要な知識を習得する。

●授業計画（講義の流れ）●

1. オリエンテーション第7章健康の捉え方
2. 第1章人の成長・発達と老化
3. 第2章身体の構造と心身機能①
4. 同上②
5. 同上③
6. 第3章疾病の概要①…第2章をふまえて
7. 同上②
8. 同上③
9. 同上④
10. 同上⑤
11. 第4章障害の理解①
12. 同上②
13. 同上③
14. 第5章リハビリテーションの概要第6章国際生活機能分類の考え方
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 90%、出席率 10%

●教科書●

「新・社会福祉士養成講座1 人体の構造と機能及び疾病」
(中央法規)

■心理学理論と心理的支援

行成 裕一郎

P S W T ・ P S W N / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (1 5 回)

●授業のねらい●

精神保健福祉士・ソーシャルワーカー業務に必要な基礎的な心理学の知識を理解する。

●授業の方法●

配布資料を用いて講義を中心に授業を行う。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

心理学の理論を基盤とした、アセスメント・介入を理解・実施できるようになる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 基礎心理学：学習・認知・情動・動機づけ
2. 基礎心理学：学習・認知・情動・動機づけ
3. 基礎心理学：学習・認知・情動・動機づけ
4. 臨床心理学：力動的心理療法
5. 臨床心理学：力動的心理療法
6. 臨床心理学：認知行動療法
7. 臨床心理学：認知行動療法
8. 臨床心理学：人間性心理学
9. 臨床心理学：人間性心理学
10. 発達心理学
11. 発達心理学
12. ストレスと対処行動
13. パーソナリティと心理検査
14. 社会心理学
15. 前期試験

●成績評価・講義上の注意●

成績評価にあたっては、定期試験の得点 70%、出欠席の状況 30%で総合的に評価する。

●教科書●

「心理学理論と心理的支援 第3版」 弘文堂

■社会理論と社会システム

田北 康成

P S W T ・ P S W N / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (1 5 回)

●授業のねらい●

社会理論を学ぶことは、福祉を实践するにあたって関連する社会問題を理解するというもののみならず、社会学的な視座の取り方を学ぶことである。授業では、社会学の大きな理論や基本的な知識を学習すると同時に、個別の出来事を社会的に捉えるための基盤を獲得することを目指す。

●授業の方法●

社会の分からなさについて、社会学がどのように取り組んできたのか、理論的背景を説明した上で、社会現象や社会問題の解明に取り組んできたこの分野について把握できるよう概説する。必要に応じて視聴覚資料を使用する。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

日常生活の出来事という私的な問題を、社会や世界全体の公的な出来事へ結びつけることができるよう社会学的な想像力や関心を抱くことができるようにする。その上で、科学的方法に基づいたデータ収集や分析方法に基づき、思考や問題解決方法を身に付け、社会福祉の実務上に役立てられるようにする。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 社会学の潮流と社会システム（社会システムの概念、文化・規範、社会意識、社会階級と社会階層）
2. 日常生活と相互行為（社会関係と社会的孤立、社会的行為、社会的役割、社会的ジレンマ）
3. 社会生活と社会集団（社会集団の類型、人と集団と組織）
4. 現代家族の変容と課題（制度としての家族と集団としての家族、家族形態）
5. 法と社会システム（法と社会規範、社会秩序、逸脱）
6. 経済と社会システム（社会的分業と労働）
7. 組織と官僚制（近代官僚制の生成と発展、経営組織体と官僚制）
8. 社会構成（社会と人口、産業と職業構成、社会構成の変化と社会福祉）
9. 生活構造（生活構造の概念・変化、高度消費社会論、ライフスタイルとライフコース）
10. ジェンダー（性別分業と性差別、現代社会の変化とジェンダー、男女共同参画社会）
11. 人口構造と人口問題（世界の人口問題、日本の人口問題）
12. 社会変動と社会運動（産業化・工業化と社会変動、都市化と社会運動）
13. 情報化と国際化（情報化と情報社会、メディアとコミュニケーション）
14. 社会問題と社会学（社会問題の構造、異議申し立てと社会問題）
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験（70％）と出欠状況（30％）

●教科書●

『社会福祉士シリーズ3 社会理論と社会システム＜第3版＞』（弘文堂）

■現代社会と福祉

白川 耕一

P S W T ・ P S W N / 講義 / 4 単位 / 通年 / 必修 (3 0 回)

●授業のねらい●

本科目は社会の動きと関連づけながら、福祉を総合的に理解することを目的としています。①福祉の歴史、②思想、③福祉が作動するメカニズム、④諸外国との比較などの観点から、現在の福祉の位置を知ることが課題です。

●授業の方法●

下記の授業計画に従い、プリントに沿って講義形式で授業をすすめます。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ①日本の福祉の歴史のアウトラインを説明することができる。
- ②90年代以降の日本の福祉の現状を、基礎構造改革、社会福祉法、準市場、ソーシャル・キャピタルなどのキーワードを使って説明することができる。
- ③孝橋正一、三浦文夫、古川孝順などの福祉理論を説明することができる。
- ④エリザベス救貧法、ウエップ夫妻、社会保険及び関連サービス、社会的排除、ワークフェアなどの言葉を使って欧米の福祉の歴史を説明することができる。
- ⑤地域福祉を地方分権化、市町村などの言葉を使って説明することができる。
- ⑥現在の福祉の課題を説明することができる。

●授業計画（講義の流れ）●

- I 第2次世界大戦後から現在までの福祉の発展
 1. 福祉三法の成立（1940年代後半）
 2. 福祉六法体制へ（1950～1960年代）
 3. 「日本型福祉社会の創出」—福祉政策の「見直し」（1970～80年代）—
 4. 少子高齢化社会の到来—1990年代の改革構想—
 5. 全世代型社会保障—2000年代の福祉改革—
- II 現在の福祉の課題（1990年代から現在まで）
 6. 高齢者福祉
 7. 障害者福祉
 8. 子育て支援政策
- III 欧米における福祉の発展
 9. 慈善・セツルメント・社会改革（19世紀）
 10. 福祉国家の成立（20世紀半ば）
 11. 福祉国家の改革（20世紀半ばから現在まで）
- IV 1945年までの日本における福祉の発展
 12. 明治時代
 13. わが国における社会事業の成立
 14. 戦時厚生事業
 15. 定期試験（前期）
- V 福祉の思想
 16. 福祉を支える思想①（日本）
 17. 福祉を支える思想②（ヨーロッパ、アメリカ）
 18. 福祉を支える思想③（ロールズ、セン、その後）
 19. 福祉を支える思想④（国連の動き）

VI 福祉のメカニズム

20. 福祉政策におけるニーズ（必要）とデマンド（需要）
21. 地域福祉の発展
22. 福祉における公・私の関係
23. 無縁社会を乗り越える

VII 福祉政策と関連政策

24. 不登校対策
25. 保健政策
26. 雇用政策
27. まちづくりと住宅

VIII 福祉の国際比較

28. 福祉国家の現状—アメリカ、ドイツなど—
29. アジアの社会福祉
30. 定期試験（後期）

●成績評価・受講上の注意●

定期試験（100％）

●教科書●

『社会福祉士シリーズ4 現代社会と福祉 第5版』（福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂）

■地域福祉の理論と方法

根本 典子

P S W T ・ P S W N / 講義 / 4 単位 / 通年 / 必修 (3 0 回)

●授業のねらい●

本科目では、以下の5点を重点的に学修することにより、地域福祉の本旨を理解し、精神保健福祉士がそれを実践で活かせる知識と力を養成し、さらに社会資源をも活用しかつ開発できるような実践力の習得を目指しながら、地域包括ケア時代を理解する。

- ①地域福祉の基本的な考え方について理解する。
- ②地域福祉の主体と対象について理解する。
- ③地域福祉に係る組織や団体及び専門職の役割と実際について理解する。
- ④地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法及びその実際について理解する。
- ⑤地域福祉の推進方法について理解する。

●授業の方法●

教科書を中心に講義を行い、必要に応じて、要点をまとめたレジュメや参考資料などのプリントを配布し、学修を深めていく。

さらに、必要に応じて、国家試験の過去問題や模擬試験問題を実際に解くことで、理解度の検証を行っていく。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ①地域福祉の被本的な考え方として、人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等について理解する。
- ②地域福祉の主体と対象について深く理解する。
- ③地域福祉に係る組織や団体にはどのようなものがあるか理解し、さらに各組織や団体における専門職の役割を理解し、それらの専門職が実際にどのように活動しているか理解する。
- ④地域福祉の推進に欠かせないネットワーキングの中での多職種及び他機関の連携の方法や実践を学びその必要性を理解する。
- ⑤地域福祉の推進方法としてどのような手法があるかを理解する。（ネットワーキング、社会資源の活用や調整・開発、福祉ニーズの把握の方法、地域包括ケアシステムの構築方法、サービスの評価方法等）

●授業計画（講義の流れ）●

1. オリエンテーションと地域福祉とは何か①
2. 地域福祉とは何か②
3. コミュニティの範囲と機能①
4. コミュニティの範囲と機能②
5. 地域福祉の理論と発展過程①
6. 地域福祉の理論と発展過程②
7. 地域福祉の主体と対象①
8. 地域福祉の主体と対象②
9. 地域福祉における地方自治体の役割①
10. 地域福祉における地方自治体の役割②
11. 地域福祉における民間の役割①（社会福祉法人）
12. 地域福祉における民間の役割②（民間組織）
13. 地域福祉における専門職の役割①（社会福祉協議会、地域包括支援センター、社会福祉施設等）

14. 地域福祉における専門職の役割②（保育所や医療等）
15. 定期試験
16. ネットワーキング①
17. ネットワーキング②
18. 地域における社会資源の活用・調整・改善・開発①
19. 地域における社会資源の活用・調整・改善・開発②
20. 地域における福祉ニーズの把握方法と実際①
21. 地域における福祉ニーズの把握方法と実際②
22. 地域包括ケアシステムの構築方法と実際（高齢者）①
23. 地域包括ケアシステムの構築方法と実際（高齢者）②
24. 地域ケアシステムの構築方法と実際（障害者）①
25. 地域ケアシステムの構築方法と実際（障害者）②
26. 地域包括ケアシステムの構築方法と実際（児童）①
27. 地域包括ケアシステムの構築方法と実際（児童）②
28. 地域における福祉サービスの評価方法と実際
29. まとめ及び過去問・模擬試験解説
30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験の成績 70 % 授業態度・出席率 30 % の割合で総合的に判断する。

教科書をよく読みこんで、地域福祉の内容を正確に把握すること。

●教科書●

『地域福祉の理論と方法』＜第3版＞ 社会福祉士シリーズ9 弘文堂

※「受験対策ワークブック」（共通科目編）を参考書として活用する。

※参考書 最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 6 『地域福祉と包括的支援体制』 一般財団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規

●教科書●

『福祉行財政と福祉計画』[第4版]—社会福祉行財政・福祉計画 【社会福祉シリーズ10】 弘文堂

※『受験対策ワークブック（共通科目編）』（中央法規）を参考書とする。

■福祉行財政と福祉計画

根本 典子

P S W T ・ P S W N / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (1 5 回)

●授業のねらい●

社会福祉における国や地方公共団体の責任と役割、福祉行政の組織・専門職の役割、地方分権の意義や内容、福祉行財政の意義と行政の関係、福祉計画の意義・内容・種類などを学修する。

社会福祉において責任をもつべき国や地方公共団体の役割を行財政的側面から理解するとともに、当事者参加や住民参加を志向する福祉計画のあり方を考える。

●授業の方法●

教科書を中心に講義を行い、参考資料等も活用し、学修を深めていく。更に、必要に応じて、過去問や模擬試験問題を解くことで、理解度の検証も行う。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

精神保健福祉士が、支援対象者の福祉的ニーズを満たすためには、社会福祉制度・サービスにかかわる実施主体や他の福祉専門職を理解して連携することが必要である。

更に、社会福祉や地域福祉の増進のために、事業を推進している国や地方公共団体の行財政システム、実地主体や専門職、各種の福祉計画などの内容を理解することを目標とする。

●授業計画（講義の流れ）●

1. オリエンテーションと福祉行政と国の役割（憲法、国と地方公共団体）
2. 福祉行財政の動向①（福祉国家の歴史）
3. 福祉行財政の動向②（福祉国家の歴史）
4. 福祉行政と地方公共団体の役割①（社会福祉行政、指揮監督）
5. 福祉行政と地方公共団体の役割②（介護保険制度の保険者）
6. 国と地方公共団体の関係（地方分権）
7. 福祉行政の組織および団体の役割①（児童相談所、福祉事務所、地域包括支援センター等）
8. 福祉行政の組織および団体の役割②（民間の組織）、福祉行政における専門職の役割①（査察指導員、社会福祉主事等）
9. 福祉行政における専門職の役割②（相談所等に配置される専門職や民生委員・児童委員等）
10. 福祉計画の内容①（地域福祉計画、介護保険事業計画、障害福祉計画等）
11. 福祉計画の内容②（次世代育成支援対策推進法による行動計画、その他の行政計画等）
12. 福祉計画の主体と福祉計画の策定と評価
13. 福祉の財源（社会保障費、予算、一般会計と特別会計、歳入と歳出、歳出科目別の内容と民生費等）
14. まとめと過去問・模擬試験
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験の成績 70%、授業態度・出席率 30% の割合で総合的に判断する。

教科書を読み込み、福祉行財政と福祉計画の内容を正確に把握すること。

■社会保障

森 長秀

P S W T ・ P S W N / 講義 / 4 単位 / 通年 / 必修 (3 0 回)

●授業のねらい●

福祉国家を標榜するわが国における社会保障の理念と意義、社会保障制度の体系および各制度の概要について理解することを通じて、精神保健福祉士に必要な知識の取得を目的とする。

●授業の方法●

年金・医療を中心とする社会保険各制度の概要を中心として講義する。あわせて、時間の許す限りにおいて国家試験対策として過去問演習やその他の問題演習を行う。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

当該科目における国家試験問題に対応できる（＝合格レベル）学力と、実務において活用可能な制度理解を備える。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 序論、社会保障の定義
2. 社会保障制度の概要と体系
3. 年金保険制度①
4. 年金保険制度②
5. 年金保険制度③
6. 医療保険制度①
7. 医療保険制度②
8. 医療保険制度③
9. 介護保険制度①
10. 介護保険制度②
11. 労災保険制度①
12. 労災保険制度②
13. 雇用保険制度①
14. 雇用保険制度②
15. 定期試験
16. 民間保険の概要①
17. 民間保険の概要②
18. 諸外国の社会保障制度①
19. 諸外国の社会保障制度②
20. 社会手当および公的扶助
21. 社会保障の理念と機能①
22. 社会保障の理念と機能②
23. 社会保障の歴史①
24. 社会保障の歴史②
25. 社会保障の財源と費用①
26. 社会保障の財源と費用②
27. 社会保障の課題①
28. 社会保障の課題②
29. 国家試験対策
30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 100%

●教科書●

「新・社会福祉士養成講座 社会保障（第6版）」（中央法規出版）

■低所得者に対する支援と生活保護制度

根本 典子

P S W T ・ P S W N / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (1 5 回)

●授業のねらい●

現代の貧困と公的扶助の歴史の変遷を理解し、生活保護制度や生活困窮者自立支援法等の仕組みとその内容について学修する。

●授業の方法●

教科書や制度に関する最新の動向等の配布資料等に沿って講義を行っていく。生活に困窮する人々を支援する制度として、生活保護法や生活困窮者自立支援制度、生活福祉資金等の多数の制度を紹介していく。さらに、それらの制度の中で福祉行政等の専門職の職員等の役割や多職種連携についての必要性についても紹介していく。加えて、国家試験の過去問題や模擬試験問題にも触れて解説を行う。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

低所得者に対する支援について、具体的な低所得者への支援の方法と生活保護法や生活困窮者自立支援法等の内容について理解をする。

●授業計画（講義の流れ）●

1. オリエンテーションと生活保護法の概要
2. 公的扶助の歴史的展開①
3. 公的扶助の歴史的展開②
4. 公的扶助の歴史的展開③
5. 公的扶助の歴史的展開④
6. 生活保護制度の仕組みと問題点①（原理と原則）
7. 生活保護制度の仕組みと問題点②（保護の種類）
8. 生活保護制度の仕組みと問題点③（保護の種類と保護の基準等）
9. 生活保護制度の運営実施体制と多職種連携
10. 生活保護の訴訟制度と権利擁護
11. 生活保護における相談援助活動（自立支援プログラム等）
12. 低所得者対策の概要と実際①（生活福祉資金等）
13. 低所得者対策の概要と実際②（生活困窮者自立支援法等）
14. まとめ
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

①定期試験 70% ②授業態度・出席率 30% の割合で、総合的に判断する。

●教科書●

『低所得者に対する支援と生活保護制度』[第5版]—公的扶助【社会福祉士シリーズ16】弘文堂

※「受験対策ワークブック」（共通科目編）中央法規を参考書とする。

■保健医療サービス

石野 博康

P S W T ・ P S W N / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (1 5 回)

●授業のねらい●

相談援助において必要となる医療保険制度や保健医療サービスについて述べるができる。

保健医療サービスにおける専門職の役割と他職種協働の実践について述べるができる。

●授業の方法●

教科書に沿って進めていく。必要に応じて、レジュメ・資料などを配布する。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ①相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容も含む）や保健・医療サービスについて理解する。
- ②保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、他職種協働について理解する。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 保健医療と法制度の歴史
2. 医療保険の法制度と現状・課題①
3. 医療保険の法制度と現状・課題②
4. 診療報酬制度の概要と課題
5. 保健医療福祉政策の概要
6. 保健医療福祉におけるコーディネート機能
7. 各専門職の役割と機能分担
8. 各専門職の機能と連携
9. 患者、家族、地域などの非専門職との連携
10. がん医療、緩和ケアと医療福祉
11. 慢性疾患・難病への対応と保健医療福祉
12. 高齢者の主な疾患と保健医療福祉
13. 地域における保健医療福祉の現状と課題
14. まとめ
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 60%、出席率 40% の割合で総合的に判断する。

●教科書●

「保健医療サービス第4版」（弘文堂）

■権利擁護と成年後見制度

森 長秀

P S W T ・ P S W N / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (1 5 回)

●授業のねらい●

成年後見制度および権利擁護のあり方について、国家試験に合格する知識・学力を修得するとともに、資格取得後に相談援助活動の実務において活用しうる制度理解を養うことを目標とする。

●授業の方法●

下記シラバスの内容に従い、テキストおよび六法を用いて講義形式で進めていく。あわせて、時間の許す限りにおいて、国家試験対策として過去問演習やその他の問題演習を行う。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

当該科目における国家試験問題に対応できる（＝合格レベル）学力と、実務において活用可能な制度理解を養う。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 成年後見制度の概要①（法定後見制度）
2. 成年後見制度の概要②（任意後見制度）
3. 日常生活自立支援事業の概要
4. 成年後見制度利用支援事業の概要
5. 権利擁護に係るマンパワー
6. 権利擁護に係る組織
7. 団体の役割と実際
8. 権利擁護と相談援助活動
9. 権利擁護活動の実務と今後の動向
10. 相談援助活動と法の関わり①（権利擁護と社会福祉相談援助の意義）
11. 相談援助活動と法の関わり②（日本国憲法と権利擁護）
12. 相談援助活動と法の関わり③（民法と権利擁護）
13. 相談援助活動と法の関わり④（行政法と権利擁護）
14. 相談援助活動と法の関わり⑤（社会福祉関連各法と権利擁護）
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 100%

●教科書●

『権利擁護と成年後見制度』（第4版）社会福祉士シリーズ 19（弘文堂）

■障害者に対する支援と障害者自立支援制度

片桐 正善

P S W T ・ P S W N / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (1 5 回)

●授業のねらい●

障害とは、その人の心身の機能や能力の問題ではなく、社会との関係のなかで立ち現れる現象である。だとするならば、障害者とは、差別や偏見や配慮の欠如を含む社会環境によって不利益が集中し、「できなくされている人」なのだと理解できよう。近年の障害者福祉は、このような「障害の社会モデル」の考え方を手掛かりに、私たちの新たな生き方や現代社会の別の在り方を考え直すひとつのきっかけを与えてくれる。

この講義においては、入所施設を中心として進められてきた障害福祉政策の歴史を踏まえつつ、その後の障害概念の転換、そして今日の障害者福祉制度を概観する。そのうえで、地域で自律／自立して生きて暮らすために必要な「新たな福祉のかたち」について検討する。

●授業の方法●

教科書を中心にすえた講義形式の授業を、レジュメを使って展開する。また、進行度合いに応じて講義の妨げにならない範囲で、国家試験の過去問題や模擬問題の解説も行う。

国家試験の過去問の解説は9年分を別途配布する。授業を踏まえて、授業外で並行して過去問に向き合うことを望む。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ①「障害の社会モデル」を理解すること。
- ②現代の障害者福祉の制度を、歴史的観点から、自分なりに評価することができるようになること。
- ③新たな福祉のかたちを構想し、同時に自分がいる社会の新たな在り方を構想できるようになること。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 日本の障害者施策の歴史
2. 障害の概念と理念
3. 障害者の生活実態とニーズ
4. 障害者福祉の法の考え方
5. 障害者福祉の法の考え方
6. 障害者基本法
7. その他の措置的な障害者関連の法
8. その他の措置的な障害者関連の法
9. 障害者虐待防止法、障害者差別解消法
10. 障害者の社会生活参加
11. 障害者総合支援法
12. 障害者総合支援法
13. 障害者総合支援法
14. 障害に対するその他の施策
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験の成績 90%、講義への出席 10%にて評価する。

●教科書●

『社会福祉士シリーズ 障害者福祉』弘文堂

■精神疾患とその治療

田中 昌克

P S W T ・ P S W N / 講義 / 4 単位 / 通年 / 必修 (3 0 回)

●授業のねらい●

主要な精神疾患について適切な知識を得て、考える理解することを目指します。将来、これを基礎として、実際に患者さんと接するなかで、知識と理解を更に深めるのに資することが授業のねらいです。

●授業の方法●

講義形式を中心としながら、教科書、パワーポイント、資料配付、症例提示、動画などを組み合わせます。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

主要な精神疾患について、それぞれの症状の特徴や診断、そしてその治療について適正な知識と理解を獲得することができる。

●授業計画（講義の流れ）●

【「精神疾患とその治療」の基礎と概論】

1. 統合失調症の歴史
2. うつ病（躁うつ病）の歴史
3. 脳の仕組み（解剖学と神経伝達の仕組み） 1
4. 脳の仕組み（解剖学と神経伝達の仕組み） 2
5. 精神疾患の状態像
6. 問診の手順とそのありかた（初診から診断にむけて）・検査（身体的な検査・心理的な検査）
7. 治療の概論（薬物療法・心理療法・環境調整など）

【主要な精神疾患についての理解と治療】

8. 精神疾患のカテゴリーの全体像
9. 症状性・器質性精神障害（認知症など）
10. 精神作用物質による精神および行動の障害（アルコール、薬物の依存など）
11. 統合失調症 1.（いくつかの型とその症状の特徴。発生のメカニズム）
12. 統合失調症 2.（治療と対応）
13. 気分障害 1.（疾患の理解）
14. 気分障害 2.（疾患の理解）
15. 定期試験
16. 気分障害（治療と対応）
17. PTSD（外傷後ストレス障害）、急性ストレス反応、適応障害
18. 不安障害 1.（パニック障害）
19. 不安障害 2.（強迫性障害）
20. 不安障害 3.（社会不安障害・全般性不安障害）
21. パーソナリティー障害
22. 摂食障害
23. 自閉スペクトラム症 1
24. 自閉スペクトラム症 2
25. 注意欠如多動性障害 1
26. 注意欠如多動性障害 2
27. 知的障害、その他の精神疾患
28. 精神保健指定医の制度と精神科救急医療の体制

【まとめ】

29. 精神疾患とその治療（まとめ・国家試験対策）
30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

- ①定期試験（70％） ②出欠状況（30％）

●教科書●

「精神保健福祉養成セミナー 新版 第1巻 精神医学－精神疾患とその治療」へるす出版

■精神保健の課題と支援

花田 照久

P S W T ・ P S W N / 講義 / 4 単位 / 通年 / 必修 (3 0 回)

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 80%、出席率 20%

●教科書●

精神保健福祉セミナー 2『精神保健の課題と支援』第 6 版
へるす出版

●授業のねらい●

精神の健康についての基本的な考え方と精神保健学の役割について理解する。

現代社会における精神保健の諸問題と精神保健の実践及び精神保健福祉士の役割について理解する。

国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。

①精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。

②現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実践及び精神保健福祉士の役割について理解する。

③精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。

●授業の方法●

授業ごとに、教科書内容をまとめたプリントを配布それに従って講義する。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

現代の精神保健に関する問題について理解し臨床の場に役立つようになること。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 精神疾患に関する基本的理解
2. 乳幼児期、学童期における精神保健
3. 思春期における精神保健
4. 青年期における精神保健
5. 成人期における精神保健
6. 老年期における精神保健
7. 精神障害対策
8. 認知症対策
9. アルコール関連問題対策
10. 薬物乱用防止対策
11. 同上
12. 思春期精神保健対策
13. 地域精神保健対策
14. 司法精神保健福祉対策
15. 定期試験
16. 緩和ケアと精神保健
17. 家庭における精神保健
18. 学校における精神保健
19. 職場における精神保健
20. 地域における精神保健
21. 地域保健・地域精神保健に係る関係法規、関係施策
22. 精神保健に関する調査研究
23. メンタルヘルスにおける精神保健福祉士の役割
24. 国および各種行政機関の役割
25. 世界の精神保健、WHO などの国際機関の活動
- 26～29. 国試問題を利用したの補遺・まとめ
30. 定期試験

■精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）

荒井 弘之

P S W T ・ P S W N / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (1 5 回)

●授業のねらい●

- ①精神保健福祉士の役割と意義について理解し、ソーシャルワーカーの知識・技術・価値について理解する。
- ②社会福祉士の役割と意義について理解する。
- ③相談援助の概念について理解する。
- ④相談援助の理念について理解する。

●授業の方法●

テキストと配布プリントに基づいて講義を行う。
相談援助のテーマに基づいたグループディスカッションを行う。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

精神保健福祉分野における精神保健福祉士の役割と意義を理解し、実際の相談援助の基盤的基礎知識について理解できる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. オリエンテーション（講義の目的等）
2. 精神保健福祉士の役割の理解
3. 精神保健福祉士の専門性
4. 精神保健福祉士の対象者
5. 精神保健福祉士の対象者支援
6. 精神保健福祉士法について
7. 社会福祉士の役割と専門性
8. 相談援助の概念（ソーシャルワークの展開）
9. 相談援助の理念（人権尊重、社会正義）
10. 相談援助の理念（利用者主体、尊厳の保持）
11. 相談援助の理念（権利擁護、自立支援）
12. 相談援助の理念（自己決定、社会的包摂）
13. 相談援助の理念（ノーマライゼーション、自己実現）
14. まとめ
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

講義への出席状況及び参加姿勢 30%、定期試験の成績 70%にて総合的に評価する。

●教科書●

『精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）』（弘文堂）

■精神保健福祉相談援助の基盤（専門）

向井 智之

P S W T ・ P S W N / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (1 5 回)

●授業のねらい●

- ①精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。
- ②精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。
- ③精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。
- ④精神保健福祉活動における総合かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。

●授業の方法●

主には、テキストを中心に講義を行う。
その他、適宜、視聴覚教材も活用する。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

精神保健福祉分野における精神保健福祉士の役割と意義を理解し、実際の相談援助の基盤的応用知識について説明できる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. オリエンテーション
2. 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要 1
3. 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要 2
4. 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要 3
5. 精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲 1
6. 精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲 2
7. 精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲 3
8. 精神保健福祉領域のソーシャルワークにおける障害者の権利擁護 1
9. 精神保健福祉領域のソーシャルワークにおける障害者の権利擁護 2
10. 精神保健福祉領域のソーシャルワークにおける障害者の権利擁護 3
11. 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携 1
12. 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携 2
13. 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携 3
14. まとめ
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 100%

●教科書●

『精神保健福祉相談援助の基盤（専門）』（弘文堂）

■精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ

城田 晴夫

PSWT・PSWN/講義/Ⅱと合わせて8単位/通年/必修(30回 Ⅱと合わせて60回)

●授業のねらい●

本科目では、精神保健福祉士の実践を裏付ける「精神保健福祉」の「理論」と実践的な支援の「展開」として、具体的な援助内容や方法論を学ぶため、精神医療福祉の領域を含めて精神保健福祉士として、精神医療福祉の歴史と動向、精神障害を持つ人の支援の基本理念、精神保健福祉士の歴史と支援対象者の支援環境を含めた理解を深める。次の精神科リハビリテーションの概念と基本原則、構成と展開、そのプロセス、方法、多職種連携チームなどの内容を修得する。

●授業の方法●

基本的には、講義は教科書をもとにしながらスライドを使って解説していく方法をとります。必要に応じて、多角的な視点や考察力を養うために、グループワークを取り入れ、事例検討を行い、視聴覚（動画やDVD）を用いた講義も行う。

さらに、必要に応じて、国家試験の過去問題や模擬試験問題を実際に解くことで、理解度の検証を行っていく。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

「ソーシャルワーク」は、「価値・知識・技術」を構成要素として成立している実践である。その原理を理解しながら、専門的かつ現実的な支援の方法をイメージできる力を養いつつ、集中して理解する。さらに、大切な内容は通年を通じて繰り返して教えますので、授業修了時には自分自身で精神科リハビリテーション学の重要な概念を説明できるようになることを目標にします。それによって国家資格取得に必要な知識を身につけるだけでなく、現場の実践にも役に立てることを目標にします。具体的には以下の項目を達成できることを目標にします。

①精神科リハビリテーション学を理解するための重要概念(ICFとICIDH、リカバリー、エンパワメント、ストレングスや、「健康」の新しい概念など)を十分に理解して他者に説明することができる。

②精神医療の特殊性(歴史や動向や精神障害を抱える場合の支援の基本的な考え方)を理解している。

③精神科リハビリテーションの基本的枠組みと構成を理解している。

④精神科リハビリテーションのプロセスと展開を理解している。

⑤精神科リハビリテーション学におけるケースマネジメント(プロセスの一つ一つ)を十分に理解して説明できる。

⑥精神科リハビリテーションにおける具体的な支援技法(認知行動療法など)を十分に理解して実践できる。

⑦精神科リハビリテーションサービス(就労支援、居住支援、デイケアなど)の現状を理解して展望することができる。

⑧地域を基盤にしたリハビリテーションの必要を十分に理解して実践できる準備ができている。

●授業計画(講義の流れ)●

1. オリエンテーション(国試の心構えと対策について)と精神保健福祉とリハビリテーション
2. 第1章 精神科リハビリテーションの基本的枠組みについて概観
3. リハビリテーションの概念と精神科リハビリテーション

について

4. 精神科リハビリテーションの歴史と精神科リハビリテーションの基本原則1
5. 精神科リハビリテーションの基本原則2
6. 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割について
7. 第2章 精神科リハビリテーションの構成
8. 国際生活機能分類と国際障害分類(医学モデルと生活モデル)1
9. 国際生活機能分類と国際障害分類(医学モデルと生活モデル)2
10. 精神障害を抱えた場合の世界の理解(動画)1
11. 精神障害を抱えた場合の世界の理解(動画)2
12. 第3章 精神科リハビリテーションのプロセスと展開
精神科リハビリテーションの基本プロセス
13. 精神科リハビリテーション(地域におけるリハビリテーション)
14. まとめ
15. 定期試験
16. 後期オリエンテーション(前期試験の振り返り)と後期の学びについて
17. 第4章 精神科リハビリテーションにおける支援方法
集団精神療法について1
18. 集団精神療法について2と認知行動療法1
19. 認知行動療法2
20. 心理教育
21. チームアプローチ
22. 第5章 精神科リハビリテーションサービス 地域生活支援とネットワークング
23. 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方1
24. 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方2
25. 仲間による地域生活支援 セルフヘルプとピアサポート
26. 精神障害を抱えた人の世界を知る(動画)1
27. 精神障害を抱えた人の世界を知る(動画)2
28. 精神保健福祉ボランティアの育成と活用1
29. 精神保健福祉ボランティアの育成と活用2
30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験の成績70% 出席状況30%

教科書をよく読み込んで講義の内容を正確に把握すること。

●教科書●

精神保健福祉士養成セミナー5 第6版「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ—精神保健福祉におけるリハビリテーション」へるす出版

■精神保健福祉理論と相談援助の展開Ⅱ

根本 典子

PSWT・PSWN/講義Ⅰと合わせて8単位/通年/必修(30回Ⅰと合わせて60回)

●授業のねらい●

本科目では、精神保健福祉士の実践を裏付ける「精神保健福祉」の「理論」と実際の支援の「展開」として、具体的な援助内容や方法論を学ぶ。

「ソーシャルワークとは何か」という問いに対して、専門的視点に立った「自らの考え」を述べるできるようになり、また、有資格者となった後に、研鑽を積み続けるモチベーションを身につけるように学修する。

●授業の方法●

教科書を中心に講義を行い、必要に応じて、要点をまとめたレジュメや参考資料などのプリントを配布し、学修を深めていく。また、多角的な視点や考察力を養うために、適宜、グループワークを取り入れ、事例検討を行う。

更に、必要に応じて、国家試験の過去問題や模擬試験問題を実際に解くことで、理解度の検証を行っていく。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

「ソーシャルワーク」は、「価値・知識・技術」を構成要素として成立している実践である。その原理を理解しながら、専門的かつ現実的な支援の方法をイメージできる力を養っていく。

●授業計画（講義の流れ）●

1. オリエンテーションと精神障害者の支援モデル①
2. 精神障害者の支援モデル②
3. 相談援助の価値前提と原則①（ソーシャルワーク）
4. 相談援助の価値前提と原則②（バイステック）
5. 相談援助のプロセスと援助関係①
6. 相談援助のプロセスと援助関係②
7. 相談援助のための面接技術
8. 相談援助活動の展開① 事例研究
9. 相談援助活動の展開② 事例研究
10. 相談援助活動の展開③ 事例研究
11. 相談援助活動の展開③ 事例研究（研究発表）
12. 家族への支援の実践
13. スーパービジョンとコンサルテーション①
14. スーパービジョンとコンサルテーション②
15. 定期試験
16. 地域において主体的に生活すること①
17. 地域において主体的に生活すること② 事例研究
18. 地域において主体的に生活すること③（研究発表）
19. 地域を基盤にした相談援助活動の意義と展開①
20. 地域を基盤にした相談援助活動の意義と展開②
21. 精神障害者のケアマネジメント①
22. 精神障害者のケアマネジメント②
22. 精神障害者のケアマネジメント③（事例研究）
23. 精神障害者のケアマネジメント④（研究発表）
24. 地域における資源の動員とネットワークングの実践①
25. 地域における資源の動員とネットワークングの実践②
26. 地域における資源の動員とネットワークングの実践③（事例研究）
27. 地域における資源の動員とネットワークングに実践④（研究発表）
28. 地域に根ざした包括的な支援活動の必要性和今後の課題

29. まとめと過去問・模擬試験解説

30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験の成績 70% 授業態度・出席率 30% の割合で総合的に判断する。

教科書をよく読みこんで、展開Ⅱの内容を正確に把握すること。

●教科書●

『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』[第2版]【精神保健福祉士シリーズ6】 弘文堂

※「受験対策ワークブック」（専門科目編）を参考書とする。

■精神保健福祉に関する制度とサービス

高橋 透馬

P S W T ・ P S W N / 講義 / 4 単位 / 通年 / 必修 (3 0 回)

●授業のねらい●

精神障害者を支援する精神保健福祉士としての業務を行うため、必要な関連法規と制度に関する知識を修得する。

●授業の方法●

精神障害者を主に対象とした支援活動を展開するために必要な法制度に関する知識の習得することを主眼とし、テキストを中心に解説し、加えて視聴覚を用いた講義を行う。

更に、国家試験対策として、過去問題の解説や模擬試験問題を活用し、国家試験対策も行っていく。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

精神保健福祉士として相談援助業務を遂行するために必要な知識を深め、実際の援助場面において用いられる法制度の説明ができるようになることを達成目標とし、次の点について重点的に理解できるようになる。

- ①精神障害者の相談援助活動と法（精神保健福祉法）との関わりについて。
- ②精神障害者の支援に関する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について。
- ③更生保護制度について。
- ④医療観察法について。
- ⑤社会資源の調整や開発に係わる社会調査の概要と活用についての基礎知識。

●授業計画（講義の流れ）●

1. オリエンテーションと社会保障全体からみた精神保健福祉に関する制度とサービスの概要
2. 社会保障の構造的理解とライフサイクルからみた精神保健福祉に関する制度とサービス
3. 制度やサービスの供給主体
4. 精神保健福祉法の成立までの経緯と意義①
5. 精神保健福祉法の成立までの経緯と意義②
6. 精神保健福祉法の全体像①
7. 精神保健福祉法の全体像②
8. 精神保健福祉法における入院形態
9. 精神保健福祉法における行動制限
10. 精神保健福祉法における権利擁護
11. 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割
12. 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス①
13. 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス②
14. まとめ（受験対策として過去問及び模擬試験の活用）
15. 定期試験
16. 障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスの実際（障害福祉サービス）
17. 障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスの実際（相談支援）
18. 障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスの実際（自立支援医療その他）
19. 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係から、刑事司法と更生保護
20. 保護観察所と更生保護の担い手及び司法・医療・福祉の連携の必要性和実際
21. 更生保護制度に関する支援課題

22. 医療観察法の概要と実際から、医療観察法の意義と内容及び医療観察法の審判と精神保健参与員の役割
23. 入院医療と通院医療
24. 社会復帰調整官の役割と実際及び医療観察法施行 10 年の現状と課題
25. 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査から、社会調査の意義と目的
26. 社会調査の対象及び社会調査の倫理及び量的調査法と質的調査法の違いと活用における留意点及び ICT の活用方法
27. 社会調査をもとに社会資源の調整や開発に結び付けた事例研究
28. まとめ（精神保健福祉法、障害者基本法、障害者総合支援法等）
29. まとめ（更生保護制度、医療観察法、社会調査等）
30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

- ①定期試験 100%

●教科書●

『精神保健福祉に関する制度とサービス』[第 6 版] 中央法規

■精神障害者の生活支援システム

白須 誠

P S W T ・ P S W N ／ 講義 ／ 2 単位 ／ 半期 ／ 必修 （ 1 5 回 ）

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 70% 出席率 30%

●教科書●

『精神障害者の生活支援システム【精神保健福祉士シリーズ 8】』（弘文堂）

●授業のねらい●

精神障害者の生活支援の意義と特徴を踏まえ、精神障害者の生活を支える制度・施策を理解し、精神保健福祉士による地域生活支援の実践を学ぶことを目的とする。

●授業の方法●

精神障害者の概念、生活の実際、地域生活を支える制度・施策の概要と、精神保健福祉士の相談援助活動の実際を理解することを主眼として、講義を中心に授業を行う。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

精神障害者の生活支援のあり方について述べることができる。また、相談支援・居住支援・就労支援・権利擁護等における精神保健福祉士の相談援助活動の実践について、基本的な事柄を説明することができる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 精神障害者の生活支援とは何か
生活支援の意味、精神障害者の定義
地域生活支援活動の経過と近年の動向
2. 精神障害者の基本的理解
精神障害者の定義と特性
生活者としての精神障害者
3. 精神障害者の生活①
精神障害者の生活の実態①
4. 精神障害者の生活②
精神障害者の生活の実態②
精神障害者と家族との関係
5. 精神障害者の生活と人権①
精神障害のある人の権利をめぐる状況
6. 精神障害者の生活と人権②
精神保健福祉士に求められる権利擁護の視点と役割
7. 精神障害者の居住支援①
精神障害者の居住に関する近年の動向
地域相談支援の概要
8. 精神障害者の居住支援②
居住支援制度の概要①
9. 精神障害者の居住支援③
居住支援制度の概要②
居住支援の実際と課題
10. 精神障害者の就労支援・雇用支援①
精神障害者の就労・雇用に関する近年の動向
就労支援・雇用支援制度の概要①
11. 精神障害者の就労支援・雇用支援②
就労支援・雇用支援制度の概要②
12. 精神障害者の就労支援・雇用支援③
就労支援・雇用支援の実際と課題
13. 相談支援事業所および行政における相談援助①
国および都道府県における実践の概要
14. 相談支援事業所および行政における相談援助②
相談支援事業所、市町村における実践の概要
15. 定期試験

■精神保健福祉援助演習（基礎）

白須 誠・高橋 透馬

P S W T・P S W N／演習／1単位／半期／必修（15回）

●授業のねらい●

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる援助相談に係る基礎的な知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。

●授業の方法●

教科書等を活用して授業を進めていく。

- ①相談援助に係る基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を行う。
- ②適宜、個別指導および集団指導を取り入れて進めていく。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

精神保健福祉士に求められる相談援助の基礎的な知識や技術について具体的に説明ができる。また一部に関しては実践することができる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 精神保健福祉援助演習の進め方①
2. 精神保健福祉援助演習の進め方②
3. 人間の理解①
4. 人間の理解②
5. 社会的環境の理解
6. ソーシャルワーク実践におけるコミュニケーション①
7. ソーシャルワーク実践におけるコミュニケーション②
8. 集団援助の基礎①
9. 集団援助の基礎②
10. 地域援助の基礎と他の援助活動
11. 支援場面のロールプレイ①
12. 支援場面のロールプレイ②
13. スーパービジョンとソーシャルワーク教育
14. ソーシャルワークの実践の基盤と社会からの要請
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 70%、出席率 30%

授業の進捗状況等により、テーマの内容や順番に変更が生ずる可能性があります。

●教科書●

『精神保健福祉援助演習（基礎）』[第2版]【精神保健福祉士シリーズ9】弘文堂

■精神保健福祉援助演習（専門）

白須 誠・高橋 透馬

P S W T・P S W N／演習／2単位／通年／必修（30回）

●授業のねらい●

他の科目（特に精神保健福祉援助演習（基礎）、精神保健福祉援助実習指導、精神保健福祉援助実習）との関連性を視野に入れつつ、主な精神保健福祉課題に関して、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術を実践的に習得するとともに、具体的事例を一般化、理論化する能力を涵養する。

●授業の方法●

教科書等の事例、精神保健福祉援助実習等における学生の個別体験を活用して、集団指導および個別指導によるケース検討や実技指導等を行う。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

主な精神保健福祉課題に関して、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識を述べ、技術を活用することができる。

●授業計画（講義の流れ）●

他科目の学習の進捗状況や精神保健福祉援助実習等における学生の個別体験を鑑み、次の3群の内容を有機的に組み合わせて実施する。

（A群）演習の意義およびソーシャルワーク実践の概要の理解

1～2. オリエンテーション

精神科ソーシャルワークの視点、精神保健福祉援助演習（基礎）との関連性、ソーシャルワークにおける事例の理解

3～4. 援助過程の基本的な展開についての理解（個別援助を中心に）

サービスの新規利用から終結まで

5～6. 集団援助の基本的な展開についての理解

グループダイナミクスの活用、自助グループ、SST等

7～8. 地域援助の基本的な展開についての理解

社会資源の活用、調整、開発

9. スーパービジョンについての理解

（B群）教科書等の事例を活用した演習

10～11. 当事者の語りから

当事者の思い、リカバリー等、

12～14. 医療機関から地域生活へ

医療機関における退院支援、地域移行支援等

15～17. 家族と学校

不登校、児童虐待等

18～20. 地域生活支援

ケアマネジメント、アウトリーチ、就労支援等

21～23. 地域における精神保健問題

ひきこもり、ホームレス、アルコール依存等

24～26. コミュニティワーク

ボランティア、社会資源開発等

（C群）精神保健福祉援助実習等における学生の個別体験を活用した演習

27～29. 事例検討、グループスーパービジョン等

30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 70% 出席率 30%

授業の進捗状況等により、テーマの内容や順番に変更が生ずる可能性があります。

●教科書●

『ソーシャルワーク演習（精神専門）—臨床ソーシャルワーク事例集—【新・精神保健福祉士シリーズ7】』（弘文堂）

■精神保健福祉援助実習指導

高橋 透馬・白須 誠

P S W T・P S W N／演習／3単位／必修（45回）

●授業のねらい●

精神保健福祉士実習を行うための基本知識・技能の獲得。職業的アイデンティティの確立のための個別指導。

●授業の方法●

見学実習・精神保健福祉士として来春に従事するために必要な社会的スキルの確認、ピアスーパービジョンによる資質についての自己理解。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

精神保健福祉士として従事するための基本知識・基本的技能を用いて、実際に対象者への支援が行えるようになる。

●授業計画（講義の流れ）●

下記3群の内容を他科目の学習の進捗状況と見合わせた上で有機的に組み合わせて実施する。

(A 群)

1. 精神保健福祉援助実習と精神保健福祉援助実習指導の意味
2. 現場実習の意義、内容
3. 現場体験学習及び見学実習
4. 実習におけるマナー
5. 実習における記録の意義
6. 精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解
7. 実際に実習を行う施設、機関、事業者、団体、地域社会等に関する基本的な理解
8. 実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解
9. 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解
10. 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解
11. 実習生が心がける常識と留意点
12. スーパービジョンの意義
13. 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画
14. 目標と課題の設定
15. 実習ノートへの記録内容及び記録方法に関する理解

(B 群)

1. 実習機関等に関する理解①
2. 実習機関等に関する理解②
3. 実習機関等に関する理解③
4. 実習機関等に所属するPSWや当事者による講義①
5. 実習機関等に所属するPSWや当事者による講義②
6. 実習機関等に所属するPSWや当事者による講義③
7. 実習機関等に所属するPSWや当事者による講義④
8. 実習機関等に所属するPSWや当事者による講義⑤
9. 実習機関等に所属するPSWや当事者による講義⑥
10. 実習機関等に所属するPSWや当事者による講義⑦
11. 実習機関等に所属するPSWや当事者による講義⑧
12. 実習機関等に所属するPSWや当事者による講義⑨
13. 実習機関等に所属するPSWや当事者による講義⑩
14. 実習機関等に所属するPSWや当事者による講義⑪
15. 実習機関等に所属するPSWや当事者による講義⑫

(C 群)

1. 事前個別発表①
2. 事前個別発表②
3. 実習（Ⅰ期）事後指導個別発表①
4. 実習（Ⅰ期）事後指導個別発表②
5. 実習（Ⅰ期）事後指導個別発表③
6. 実習（Ⅰ期）事後指導個別発表④
7. 実習（Ⅰ期）事後指導個別発表⑤
8. 実習（Ⅱ期）事後指導個別発表①
9. 実習（Ⅱ期）事後指導個別発表②
10. 実習（Ⅱ期）事後指導個別発表③
11. 実習（Ⅱ期）事後指導個別発表④
12. 実習（Ⅱ期）事後指導個別発表⑤
13. スーパービジョン①
14. スーパービジョン②
15. 実習の評価全体総括会

●成績評価・講義上の注意●

提出物・実習発表60%、出席率40%

●教科書●

精神保健福祉士シリーズ11『精神保健福祉援助実習（第2版）』弘文堂

■精神保健福祉援助実習

根本 典子・高橋 透馬・白須 誠

P S W T・P S W N／実習／7単位／通年／必修（210時間）

●実習のねらい●

精神保健福祉士として必要な援助技術や知識の向上のために実習を行う。具体的には、①精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。②精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。③精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

●実習の方法●

厚生労働省により示された基準を満たす実習施設で、実習指導者のもと、所定の時間（210時間以上）の実習を行う。

配属される実習施設は、医療機関及び福祉施設等の2か所以上である。その内、医療機関は90時間以上となる。

実習中は、専任教員による週1回程度の巡回または帰校による指導が行われる。

●実習修了時の達成課題（到達目標）●

実習体験を、精神保健福祉に係る各講義科目、精神保健福祉援助演習、精神保健福祉援助実習指導等での学習とも統合させながら、精神保健福祉士として必要な知識と技能を身につける。具体的内容は概ね以下の通りである。

①精神科医療機関において必要とされる知識と技能

- ア 入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助
- イ 退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助
- ウ 院内多職種との連携を通じた援助
- エ 日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助
- オ 地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助

②福祉施設において必要とされる知識と技能

- ア 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- イ 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
- ウ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成
- エ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む）とその評価
- オ 精神科医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践
- カ 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解
- キ 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- ク 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実践
- ケ 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働

きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

●実習過程と科目配置●

実習過程と科目配置は、概ね次のような関係になっている。

- ・実習前及び実習後は「精神保健福祉援助実習指導」
- ・実習中は「精神保健福祉援助実習」（本科目）

●成績評価・講義上の注意●

各実習施設の評価を50%、巡回指導を基にした教員の評価を50%として最終的な評価を決定する。

●教科書●

精神保健福祉士シリーズ11『精神保健福祉援助実習（第2版）』弘文堂

